

毘沙門天



これが毘沙門天かー
なるほど。



国指定重要文化財

国指定重要文化財
庚申
一
彫刻 木造兜ばつ毘沙門天立像
両像とも元禄毘沙門天と呼ばれる立像で、庚申堂内に安置されている。毘沙門天は四天王のうち、北方の守護神である多聞天の別名で、通常四天王がそろっているときは多聞天、単独のときは毘沙門天と呼ばれる。兜ばつ毘沙門天は、毘沙門天の異形で、西域の東部(トルファン)あるいはチベットなど(唐)に現れたと伝えられ、王城守護の役割を持つ。平安時代には、外敵から国を守るという意味で、九州や東北地方でもさかんに製作された。
二像とも頭から足元の毘沙門天までの主要部は檜材の一木造で、頭に三冠をのび、すそは長い体に密着した鎧を身につけ、腰は彫像となっている。二像のうち一像は腹部に太鼓りの輪をつけ、腰巻状の帯をつける点で他の一像と区別される。両像とも本来両手に持つべき宝槍や戟は失われており、また当初は彩色が施されていたと思われる。両像がどのような様相で伝えられたかは、確実な史料がなく明らかでないが、平安時代前期の作例として貴重である。

総高 一九六・五cm 像高 一七二・三cm
総高 一八四・七cm 像高 一五八・六cm
平成十四年六月二十六日指定
岡崎市教育委員会

木造兜ばつ毘沙門天の身長は、約180cm～190cmです。

左側には、手を挙げて毘沙門天がいて、右側には、握りこぶしを作っている毘沙門天があるよ。

この庚甲堂を未来に残し、これからもこの国も守ってほしいです。

「木造兜ばつ毘沙門天とは」

兜ばつ国に現れたと伝えられ王城守護の役割を持つ。
平安時代には、外敵から国を守るという意味で、九州や東北地方でさかんに製作された。
さらに、「岡崎観光きらり百選」にも指定されている。
上の写真が鹿勝川の庚甲堂。

